



地域ボランティアプログラム 「事前学習Ⅱ」 報告

2017/7/22

地域ボランティアプログラム「事前学習Ⅱ」

7月22日（土）、本センター独自のボランティア活動の1つ「地域ボランティアプログラム」の事前学習Ⅱが行われました。今年で2年目になるこの活動には、2年目の学生（サポーター）が4人、1年目の学生が15名参加。この事前学習にも、ほぼ全員が参加し、これからの活動にあたって知っていてほしいことや、こうした活動を始めた経緯などを講師の方々から伺うことができました。講師は、プログラムの活動でもお世話になる、本学の生命科学コースの加藤英寿先生と、「ひなた緑地遊学会」の代表の北出さんにご担当いただきました。

・昨年の活動と、緑地&地域の課題

事前学習はまず、昨年も活動に参加した2年目の学生（サポーター）が、昨年の活動を発表することからスタートしました。スライドを用いて、「里山の保全活動を通して目指すものは何か」「1年の活動を通じて得られた成果や気付いた課題」などについて、1年目の学生たちにわかりやすく伝えてくれました。

続いて、ひなた緑地遊学会の北出さんより、「遊学会の歩み」「南大沢地域の少子高齢化の現状」「遊学会が目指す里山の形」等についてお話いただきました。説明の後で質問に訪れた学生にも丁寧に回答していただき、学生にとっては非常に親しみやすい「地域との交流」となりました。

・竹林景観ネットワーク研究集会

午前の学習が終了して昼休みを挟んだあとは、隣の教室で開催された「竹林景観ネットワーク第20回研究集会」の発表を聴講しました。竹林や里山保全の研究を行っている様々な分野の研究者が集い、各々の研究成果を発表するこの集会では、加藤先生も発表をされました。加藤先生からは、私たちの活動フィールドである本学の「松木日向緑地」の現状や目指したい状

態、昨年の本プログラムの活動等についての発表がありました。その他にも学術的な難しい話も多かったですが、自身の体験談などを織り交ぜた楽しい発表もあり、そうした研究をよく知らない人でも十分関心をもてる集会でした。

・目標設定&自主企画の提案

発表を聴いた後、事前学習のまとめとして、これからの活動にあたっての個人の目標を設定し、発表してもらいました。

- ・「未来を見据えた地域ボランティア」
- ・「他の地域の参考になるような取り組みを実施する
～NEC(new, easy, creativity)を意識して～」
- ・「南大沢の人々・自然と関わり、活動を通して南大沢にもっと根差していく」といった様々な目標が、その理由と共に述べられました。事前学習を通じて参加学生は、より一層活動へのイメージが明確化できたことが伺えました。

最後に、この地域ボランティアプログラムで実施する学生の自主企画についての話し合いを行いました。参加2年目で、今年度の地域ボランティアプログラムのリーダーを務める志村くんより、事前に参加2年目の学生で集まって企画を練った「流しそうめん&竹の水鉄砲大会」の提案がありました。まだ開催が確定しているわけではありませんが、学生たちが昨年よりさらに主体的にこのプログラムに取り組み、里山を通じて地域との交流や様々な問題解決に向けて取り組んでいこうという思いが伝わる提案でした。

いよいよスタートした地域ボランティアプログラム。実際の活動は夏休みの中旬以降となります。今年は参加者に1年生が多く、期待と不安が入り混じっていることと思いますが、参加2年目の学生が、彼らをしっかりとサポートしつつ、里山にとっても地域にとっても参加者にとっても、有意義でやりがいのある活動にしていってほしいと思います。



加藤先生による里山活動報告

本学の里山の問題にいち早く気づいた加藤先生は、2007年頃から様々な取り組みを行ってこられました。今回の報告会では、先生と学生あわせて数名から始まった里山での取り組みが、地域や大学も関わるようになったことで、自分が予想していたよりもずっと大きく頼もしいものになってきた、とお話してくださいました。



活動にあたって、自分の目標を設定

ボランティアプログラム恒例の取組として、今年も活動を通しての目標を参加者に設定してもらいました。2年目の学生は昨年の経験を踏まえた目標を、1年目の学生は、このプログラムに参加した時の思いを踏まえた目標を設定していました。初めて顔を合わせる学生が多く、発表の際は緊張している様子でしたが、皆、真剣に自分の考えを発表してくれました。